

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No : 23-023)

1 米国の議員らは、国家安全保障省に宛てた書簡で、北マリアナ諸島連邦への中国人観光客をビザ無しで入国させている現在の政策が、麻薬密売、不法移民、組織犯罪などの問題を引き起こしているとして、米国のすべての領土でビザの取得を義務付けることを要望した。

北マリアナ諸島経済は観光業に大きく依存しており、中国市場は北マリアナ諸島の観光業の40%以上を占めている。

[原文](#)

(5th December 2023, Radio NZ)

2 木曜日(11月30日)、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)で「損失と損害」(ロス&ダメージ)に対応するための新たな基金が採択され、COP28のホスト国であるアラブ首長国連邦(UAE)が1億ドル、英国が少なくとも5100万ドル、日本が1000万ドル、欧州連合(EU)が2億4539万ドル(うちドイツが1億ドル)の拠出を約束した。

[原文](#)

(1st December 2023, FBC)

3 米国国務省は火曜日(12月12日)、マーシャル諸島の元大統領であるNote 現運輸大臣と国会議員のHalferty氏の2人に対し、重大な汚職への関与を理由に米国への入国を禁止した。2人は、マーシャル諸島に半自治区を創設するための法案を議会で支持する見返りに中国出身の詐欺師(※マーシャルに帰化し、法案を主導)から賄賂を受け取ったとされている。マーシャル諸島の議員が米国政府から公に制裁を受けるのは初めてのことである。2人は先月行われた国政選挙で再選を果たしていた。

[原文](#)

(14th December 2023, Radio NZ)

4 フィジーのティコンドゥアドゥア内務大臣は水曜日(12月13日)、同国政府が国家安全保障・国防戦略の見直しに着手すると発表した。同大臣は、「この見直しの主な目的は、フィジーの国益と目標を示すだけでなく、核心的な価値観や原則をまとめ、各政府機関の役割が国民的精神に沿ったものとなるよう国家安全保障戦略を策定することである。」と述べた。見直しは国防と安全保障に関する法規制改革と安全保障部門の改革・ガバナンス設計も含む。

見直しは来年 2 月から始まり、8 月に完了し、11 月に国会で報告される予定である。

[原文](#)

(14th December 2023, Radio NZ)

5 太平洋の首脳らは、「Blue Pacific Prosperity」構想を発表した。この構想は、海洋の保護、人々の健康、利用可能な資金の確保、という 3 つの目標に焦点を当てて構成されており、国連の「30 by 30」目標（※2030 年までに地球の陸地と海洋の 30%を保護するという目標）に沿って、太平洋地域の約 3 分の 1 の海洋が保護下に置かれる内容となっている。

このイニシアティブの大きな特徴は、慈善団体や民間企業が資金を提供できることである。ベズス・アース・ファンドは 1 億ドルの寄付を約束し、地球環境ファシリティ (GEF) も 1 億 2500 万ドルの追加拠出を発表した。

「Blue Pacific Prosperity」構想は火曜日 (12 月 12 日)、国連気候変動枠組条約第 28 回締約国会議 (COP28) において、署名のために公開される。

[原文](#)

(11th December 2023, Radio NZ)

6 マーシャル諸島の選挙管理局が今週発表した選挙速報によると、国会議員の 33 議席のうち 13 議席が入れ替わる。マーシャル諸島には正式な政党は存在しないが、野党にあたるハイネ前大統領を支持したグループが議席を増やしている。最終的な公式結果は 12 月 26 日に発表される。

議席を失った現職議員は、Kedi 議長、Jibas 副議長、Silk 天然資源大臣、Nemra 財務大臣、Alfred 前財務大臣などである。

また、4 人の女性議員が誕生するのはマーシャル諸島では初めてのことである。直近では 2 人、過去最高は 3 人であった。

マーシャル諸島の憲法上、国会は 1 月の第一月曜日に召集される。第一月曜日は元旦で祝日のため、次の国会は 1 月 2 日 (火) に召集され、新たな大統領、議長、副議長が選出される。

[原文](#)

(15th December 2023, Radio NZ)

7 マーシャル諸島海上警察の「RMIS LOMOR II」は、コロナ禍による長い国境閉鎖で日本からの技師の派遣を伴うメンテナンスができていなかったが、4 年ぶりとなる大規模メンテナンスが行われ、今週火曜日 (12 月 12 日) に海上試運転が成功裏に実施された。

今回のメンテナンスでは、艇の上部のライティングブリッジを撤去し、アンテナを折りたたみ式に交換した。これにより、(※環礁内の基地から外洋への唯一の北側出口だけでなく、南東側の出口となる) マジュロ橋の下を通過できるようになったため、外洋での緊急対応がより迅速になる。

イバイ港配備の「RMIS TARLANG 04」にも大規模整備が行われた。

日本財団はマーシャル諸島政府に同 2 艇を供与しており、燃料、通信、メンテナンスなどの運用コストを含め、継続的な支援を実施している。

[原文](#)

(15th December 2023, The Marshall Islands Journal)



Lomor II back in action P2



The Sea Patrol sea trial crew including technicians from the Nippon Foundation. Photo: Wilmer Joel.

Overdue overhaul a success

Following its first major maintenance overhaul in four years, Sea Patrol's RMIS Lomor II successfully conducted a sea trial of the 50-foot vessel Tuesday this week. The long Covid border closure prevented extensive maintenance involving technicians from Japan provided by the Nippon Foundation, who provided the vessel to RMI in 2012 and provide ongoing

support. This overdue overhaul was performed from November until mid-December.

Among key developments, the Nippon Foundation-Sea Patrol team removed the flying bridge from the top of the boat and replaced the radio antenna with a folding one. This change allows the RMIS Lomor II to pass under Majuro bridge, making emergency

responses in the Arno-Mili area faster. The maintenance team from Japan also performed major maintenance on the RMIS Tarlang 04 patrol boat that is stationed at Ebeye. The Nippon foundation supports operational costs of both boats, including fuel, satellite communications and regular maintenance costs that contribute significantly to Sea Patrol's readiness capability.